

NO. 497



令和元年度 三田市人権ポスター優秀賞作品

狭間小学校5年(前年度) 山口奏さん

人権さんだ

いやなんだ
あのこがひとりに
なることが
ゆりのき台小学校2年(前年度)
安久 楓花さん

令和元年度
三田市人権標語入選作品

人権さんだは、みなさんに人権に関する気づきや情報などをお届けします。新たな発見や共感したことなどを含めてご意見、ご感想を人権推進課までお寄せください。
問い合わせ＝福祉共生部共生社会推進室人権推進課
(559-5148 FAX562-1294 eメールアドレス jinken_u@city.sanda.lg.jp)



「わたしたちの平和宣言」～平和の心を世界に～ ＜志手原小学校6年生の授業から＞



1945年8月6日、広島に、8月9日、長崎に原爆が投下されました。原爆は、恐ろしいほどの破壊力を持ち、一瞬で多くの尊い命が奪われました。第2次世界大戦は終結しましたが、核兵器は世界に拡散し、現在、核保有国9カ国に13400の核兵器があると国際平和研究所）

私たちは、多くの先人の戦争体験から学んだことを心に刻みながら平和な社会を築く努力を続けてきました。戦後75年を迎えた今でも、「戦争を語り継ぐこと」が脈々と行われています。今回は、市内の志手原小学校6年生の平和学習の様子を4日間にわたり取材をしました。

広島平和学習(7月3日)

教室で子どもたち7人が、担任の森田幸子先生を囲むように座っています。「まっ黒なおべんとう」という絵本を手にした先生が、広島に原爆が落とされたあの日の朝の様子を静かに語りかけます。



「爆風や熱、放射線によって14万人の尊い命が奪われたんだよ。三田市の人口は今、11万人だよ」と聞いた時、子どもたちは、驚きを隠せません。

その後、長崎にも原爆が投下され、日本は終戦を迎えたことも伝えられます。そして、現在の世界の核兵器保有数を知った子どもたちからは、「広島であんなに大変なことが起きたのに、何で今、世界にこんなたくさんさんの核兵器があるんやろ」という疑問の声が上がります。

絵本を通した追体験で子どもたちの感じた率直な気持ちは、「こわい」です。しかし、現在の世界の実情を知った時、その気持ちは、大きな疑問となり「もつと知りたい」という気持ちに変わっていきました。子どもたちにこれからどんなことを知りたいか聞いてみました。

原爆の大きさ、原爆が落ちた時の様子やその後のことを調べたい
実際に被爆した人の経験やどんな思いだったかを調べたい

世界の核兵器がなぜ減らないのかそんなら作ってどうするのか調べたい



授業後に聞いた、森田先生の「広島を昔の話として学ぶのはなく、75年前の事実と今の現実を同時に捉え、自分の行動を考える大切な第一歩にしていきたいんです」という言葉が心に残りました。

森田先生は、国連の「持続可能な開発目標SDGs」(※1)の考え方を取り入れて、今回の授業を計画されました。

※1 2015年に国連が採択した世界中の人々が平和に安心して暮らせるための目標。17の目標の一つに「平和で包摂的な社会を促進する」という項目がある。

「折り鶴集会」に向けて(7月10日)

子どもたちは次の週に予定されている「折り鶴集会」の準備を進

めていました。

折り鶴集会で6年生は、原爆症と闘いながら平和を祈り続けた「佐々木禎子さん」の話を全校生に伝え、折り鶴を折ってもらうように依頼します。「佐々木禎子さん」は、広島市で被爆した少女で、広島平和記念公園にある「原爆の子の像」のモデルともなっている人です。わずか12歳で亡くなった彼女の回復を祈って、まわりの人々と共に折り始めた「折り鶴の話」は彼女の死後も語り継がれ、今もなお、全国の子どもたちが千羽鶴を「原爆の子の像」に届けています。

折り鶴集会(7月13日)

早朝に行われた「折り鶴集会」で、6年生は落ち着いて全校生に語りかけました。「さだ子と千羽づる」という絵本をスクリーンに写しだし、分担して朗読しました。子どもたちが中心になり、自分たちの学びを全校生に伝えることで、学びに一層の深まりが生まれる様子を間近に感じることができました。この後、6年生は各教室を巡回して、折り鶴の折り方を教えながら全校生と交流していきます。



▲折り鶴集会の準備の様子

沖縄平和学習(7月17日)

6年生は沖縄戦についても学習します。この日には、映画「サトウキビ畑の唄」を観た感想を交流していました。映画の中の「人を殺すために生きてるんじゃない」という言葉が印象に残ったという子もいました。日本で唯一地上戦となった悲惨な戦場でも人と人が心の交流をする場面もあり、子どもたちは真剣にお互いの思いを出し合いました。森田先生が「『平和を世界に』ではなくて、『平和な心を世界に』ということが大事なのかな」と語りかけているのが印象的でした。



▲志手原小学校6年生のみなさん

今回の取材を通じて、子どもたちの心の中に75年前に実際にあったことを学びたいという気持ちや育つていく様子を感じることができました。この後、子どもたちは学んだことを整理して「平和新聞」にまとめていきます。そして、6年生は修学旅行で実際に広島への地を訪れ、現地の「語り部」さん(※2)のお話を聞いてくる予定です。

今回の学習のまとめは、市役所1階ロビーで開催中の「平和新聞・反戦平和パネル展」で展示していきます。(8月20日15時まで)

※2 平和を願い、戦争の恐ろしさ、悲惨さを次の世代に伝え続ける活動をしている人